

令和4年度

美馬中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 主体的に学習する力を伸ばす授業づくり
- 学校と家庭との連携による家庭学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
田村晃輝	校長:小田直人 教頭:住友咲子 教務主任:日浦宜子 1学年主任:福田一敏 2学年主任:野口亜希子 3学年主任:武岡美智

校長

小田直人

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教職員間の授業参観や報告等、様々な機会を捉えて取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○毎時間の授業内容を理解できている生徒が多い。また、家庭学習の習慣が定着し、基礎的・基本的な知識・技能が身につけられていたり、与えられた課題にまじめに取り組めたりする生徒が多い。 ●長文を速く正確に読み、必要な情報を抜き取ったり、身につけた知識等を関連付けて応用したりすることに課題がある。	・学習したことが定着し、既習の内容と新たな学習内容とを関連付けて考え、必要に応じて活用できる。 ・音読回数を積極的に増やすことで、長文に読み慣れ、各教科において文章を速く正確に読み取ることができる。	・国語科を中心としたあらゆる教科で、様々な文章を読む機会を設けたり、音読させたりする。 ・生徒が課題意識をもって学習に取り組めるように発問を工夫する。 ・教員が相互に授業参観をする機会を設け授業力向上に努める。 ・ICTを活用して、個に応じた復習を設定する。		・すべての教員が「わかりやすい発問や説明」を工夫しており、本年度も「学び合いウィーク」で互いの授業を参観し、授業力向上に努めた。「前に学習したことを、新たな内容を学習するときに関連付けたり活かしたりできた」と回答した生徒は81%と昨年度より割合を増やすことができた。また、77%の生徒が「長い文章や本を読むことは、1年前と比べて好きになった」と回答した。多くの生徒が長文に慣れてきていると考えられる。	・「学び合いウィーク」を利用した教員の相互授業参観ができたことと回答した教員は54%だった。忙しい中であるが、お互いに授業参観できる工夫をしていきたい。また、「毎時間の授業内容が分かった」と回答した生徒の割合は、昨年度より少し減ったため、ICT(1人1台タブレット)を有効活用した授業や復習方法を考え、生徒たちの学習内容の理解を深めたい。教員間でのICTの使い方の共有も行っていける機会を設けたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○相手の話の意図を考えながら聞いたり、相手に分かりやすく伝えようと工夫して話したりしようとする生徒が多い。 ●課題意識をもって学習に取り組む、自分に必要な情報を取り入れて、まとめたり新たな考えを導き出したりすることに課題がある。	・各授業における課題等について、話し合い活動を通して解決する方法を考えたり、自分の視野を深めたり広げたりすることができる。 ・目的に応じて、自分の考えを根拠を明確にし、表現を工夫して話したり書いたりすることができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・授業ごとに目標を明確にし、生徒に授業の見直しをもたせ、「振り返り」をする機会を設ける。		・話し合いや教え合い(ペア学習やグループ学習)を通して考えが深まったという生徒が92%おり、自分の考えを話したり、書いたりするときに、根拠を話すよう(書くよう)心がけた生徒は86%となり、昨年度より割合を増やすことができた。また、授業の中で、ICTを有効活用したと回答した教員は72%であった。	・授業の初めに「目標」を示し、見直しを持たせたと回答した教員は91%いたが、「振り返り」をしたと回答した教員は55%と低い数値になっているため、昨年度と同様に改善していけるようにしたい。また、「相手の意図を考えながら聞くことの指導を適宜行った」と回答した教員は45%と低い数値だったため、改善していきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守り、落ち着いた態度で授業を受けられる。また、課題をもって家庭学習に取り組める生徒が多い。 ●指示されたことにはまじめに取り組めるが、不得意な学習内容に対しては自発的に質問をしたり、学習方法を工夫し計画的に取り組むことに課題がある。	・短期的、長期的な自分の目標を決めて、継続的に努力を積み重ねることができる。 ・わからないところを自覚し、自ら解決しようとする。	・「家庭学習の友」を定期的に記入させ、その内容や成果について適宜アドバイスしたり、意識が高まるよう声かけをする。 ・小中連携して「家庭学習強調週間」や「自主勉ノート展」を設け、中学生としての学習に対する自覚を持たせ、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。		・「家庭学習の友」記入日を周知し、定期的に記入することができた。その内容や成果について、担任以外にも学校長から一人一人コメントをもらい、目標や努力についてのアドバイスをもらい、生徒たちの意識の向上に繋げることができた。また、小中連携の一貫で、「家庭学習強調週間」・「自主勉ノート展」を設けたことで、学習に対する意識を高めることができた。	・「家庭学習の友」に毎月の目標や振り返りを記入することで、目標をもって生活できた生徒の割合は、昨年度より増えたが、7割にも満たないため、「家庭学習の友」の有効活用方法を考えることが必要である。また、「家庭学習強調週間」は、呼びかけやポスター掲示を行っているが、家庭学習が身についた生徒は、全体の8割に満たないため、更なる工夫を取り入れたい。

令和4年度 学力向上ロードマップ

